

ID No.	238
研究課題名	エピジェネティクス関連遺伝子をターゲットとした白血病・MDS 新規治療戦略の確立
研究代表者	上久保 靖彦 (京都大学大学院・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	北村 俊雄 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
<p>知財申請中のつき、重要因子名などマスクして記載。</p> <p>CML、Ph1ALL及びTKI耐性CML、TKI耐性Ph1ALLに関する研究 転写因子Aに対する人工転写因子を試作し、Ras Gene Module 構成経路（古典的 MAPK 経路、PI3-Akt 経路、JAK-STAT 経路、その下流の C-Myc、JUN、Fos、FOXO など）の蛋白発現プロファイル、リン酸化ステータスを解明した。：Ras Gene Module 構成経路のB経路をメインに腫瘍促進因子が効率的に抑制された。（平成28年5月知財申請及び投稿予定） NOG 移植モデル系（MLL-AML+FLT3-ITD、PhALL）への投与実験により、MLL-AML+FLT3では、Cytarabine 投与群より有意な生存延長を認めた。PhALLでは、TKI 投与群より有意に生存が延長した。各々現在臨床応用しようされている薬剤より有効であり、特に TKI 耐性メカニズムを超えるマウス POC が得られた。転写因子 A 抑制コンセプトにより造血器悪性腫瘍の広範に有効であることが示唆された。</p>	